

♪ 2017年度 **poco a poco** ♪

Nr. 13 2017年10月4日(水) 文責: プファイル・辰巳

Der Goldene Oktober

9月の末から一気に木々の葉っぱが色づいてきました。秋休みまでに、黄葉が終わってしまうのではないかと、ちょっと心配です。

八百屋さんの店先では、りんごにぶどう、かぼちゃに新じゃがなど、秋の味覚が山積みになっていて、収穫祭や秋祭もあちらこちらで催されていますね。

Federweisser(発酵途中のワイン)の季節でもあり、ドイツの秋は短いですが、楽しみがいっぱいです。

日本人学校でも学校祭が近づいてきました。ステージ発表に教室発表、展示物など、準備することがたくさんあり、児童生徒のみなさんも、父母会のみなさんも大変な時期です。本番で力を出し切れるよう、また思いっきり楽しめるよう、体調も整えて当日をお迎えくださいね。



音楽こぼれ話 <作曲家のこの一曲 ⑦ メンデルスゾーン

ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 Op.64>

フェリックス・メンデルスゾーン=バルトルディは、ドイツ・ロマン派を代表する作曲家の一人です。北ドイツのハンブルグで、1809年、ユダヤ系の裕福な銀行家の息子として生まれました。姉のファニー・メンデルスゾーンも女性ながらに優れたピアニストであり、作曲家でありました。仲の良い姉弟だったそうです。

モーツァルトも幼いころから天才ぶりを示し「神童」と呼ばれてしまいましたが、フェリックス・メンデルスゾーンも同じように子ども時代から才覚を表し、やはり神童ぶりを発揮していたそうです。結婚行進曲を含む有名な「真夏の夜の夢」を作曲したのが17歳の時だといえますから、作曲家としても早熟だったことがわかります。

メンデルスゾーンの大きな功績の一つに、忘れられていたJ.S.バッハの作品を再演し、大バッハの偉大さを後世に伝えたということがありますが、その「マタイ受難曲」を再演指揮をしたときも、若干20歳だったそうです。ライブツィヒのゲヴァントハウス・オーケストラの指揮者に就任したのが26歳の時。ちなみに、現在使われているような指揮棒を最初に使い始めたのも、メンデルスゾーンではないかと言われています。



ユダヤ系作曲家ということで、ワーグナーから中傷されたり、ヒトラーの時代に演奏中止にされたり・・・という歴史もありますが、先述の結婚行進曲だけではなく、歌曲や交響曲、ピアノ曲など、幅広いジャンルで、今日では演奏されることの多い作曲家です。

彼の作曲したヴァイオリン協奏曲・ホ短調は、ベートーヴェン、ブラームスの作品と並んで、ドイツ3大ヴァイオリン協奏曲の一つに数えられています。甘くロマンチックなメロディがヴァイオリンの震えるような音にマッチして、短調の響きが哀愁をそそります。日本の演歌に通じるような泣かせる旋律も出てくるためか、日本人にも人気がある曲だそうです。

実はこの曲、私の中学時代の鑑賞曲でした。(古い話です)その時も、すてきなメロディだなあと記憶に残ったのですが、数年後、大学受験で悩んでいる頃に、NHK「若い芽のコンサート」という番組で、堀米ゆず子さんの演奏を聴く機会がありました。メンデルスゾーンの美しい旋律、堀米さんのすばらしい演奏に心が揺さぶられ、今さら演奏家にはなれなくても、せめて音楽教育の道に進みたい・・・という思いを持つきっかけになりました。私にとっては、まさに思い出深い曲の一つです。

メンデルスゾーンがこの曲を完成させたのは36歳の時。その後わずか2年後、38歳の若さで姉ファニーの後を追うように、フェリックスも世を去りました。

ほんのちょっとだけ 演奏会情報

- | | |
|-----------|------------------------|
| 10月22日(日) | いずれも アルテオーパー 大ホールにて |
| 11時から | フランクフルト歌劇場ムゼウムス・オーケストラ |
| 10月23日(月) | ブルッフのヴァイオリン協奏曲 |
| 20時から | メンデルスゾーンの交響曲 第5番 ほか |